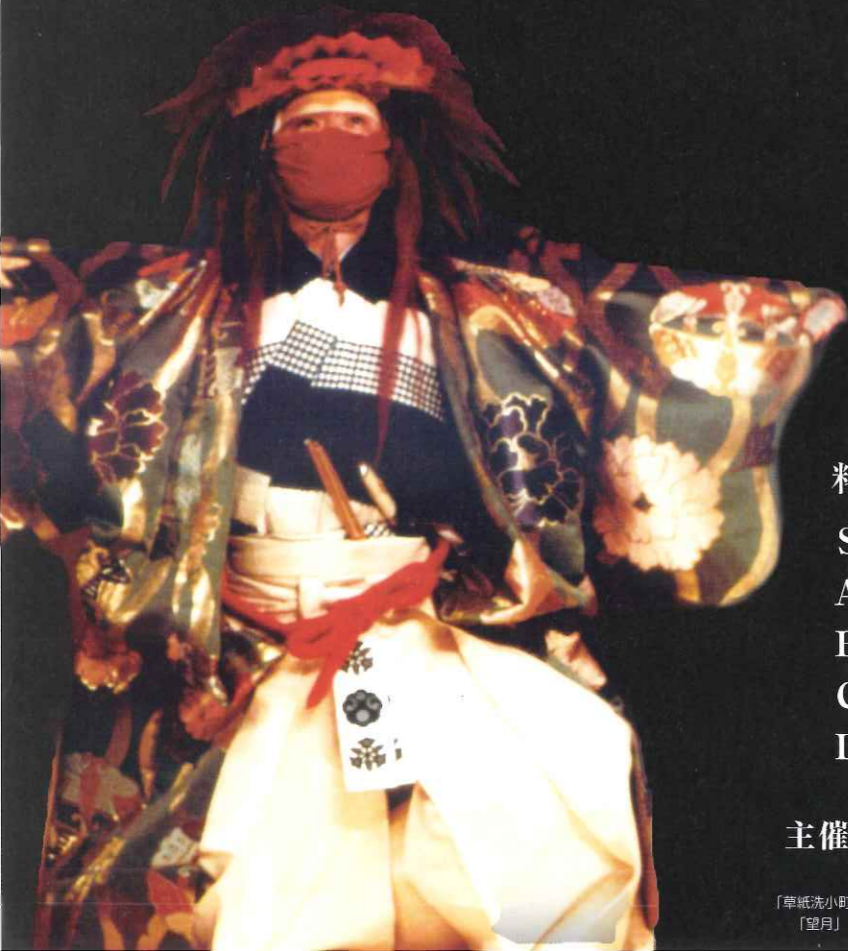




平成29年 1月29日(日)
13:00 開演 (12:00 開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂



料金：全席指定
S席 12,000円
A席 10,000円
B席 8,000円
C席 6,000円
D席 3,000円

主催：喜多流職分会

「草紙洗小町」シテ・内田安信 撮影・あびこ写真
「望月」シテ・栗谷明生 撮影・あびこ写真



第四回 喜多流特別公演

草紙洗小町 大村 定
福の神 山本東次郎
望月 栗谷明生

チケット予約購入のご案内

平成28年11月16日(水) 午前10時発売開始

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金を指定の銀行口座にお振込みください。
入金確認後、郵送にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

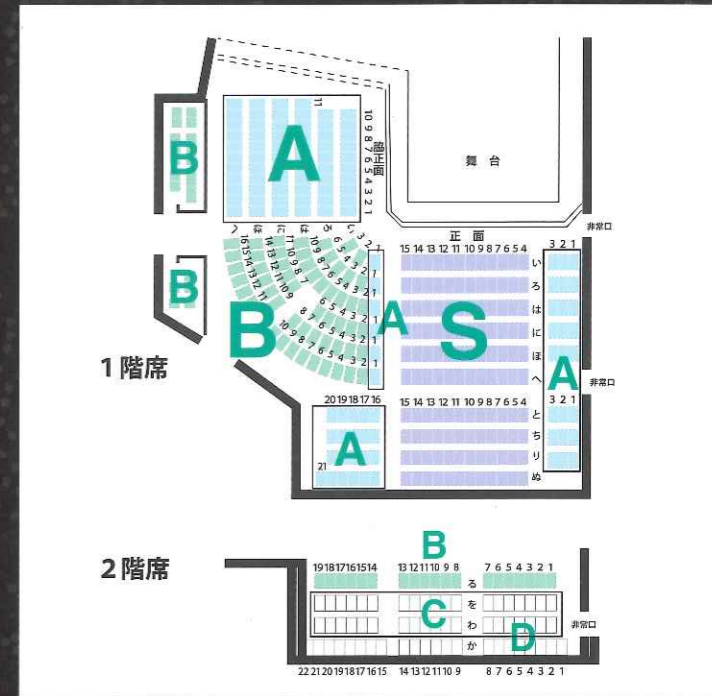
お支払いは現金のみとなります。

※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。
ご予約の際ご案内いたします。
※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー・見所での飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

観客席御案内

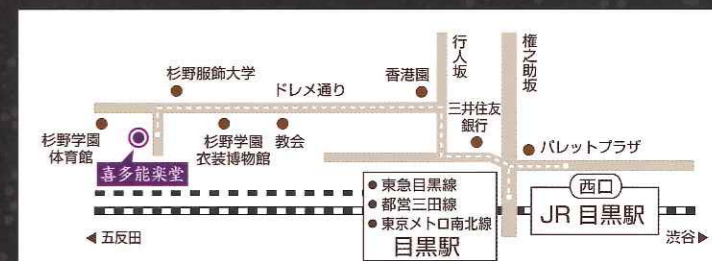


料金 全席指定

S席 12,000円 C席 6,000円
A席 10,000円 D席 3,000円
B席 8,000円

財団維持会員の方には先行予約案内のお知らせハガキをお送りします。
平成28年10月20日になっても届かない方は能楽堂事務局までご連絡ください。

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。
目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。
※ 当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。



十四世喜多六平太記念能楽堂 (喜多能楽堂)

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999

オフィシャルホームページ: <http://kita-noh.com/>

喜多流特別公演

平成二十九年一月二十九日(日)午後一時始

能

シテ連殿上人 友枝真也

シテ連殿上人 粟谷充雄

シテ連官女 佐々木多門

シテ連官女 粟谷浩之

シテ連紀貫之 内田成信

子方帝 内田利成

後シテ前同人

大村 定

前シテ小野小町

草紙洗小町

後ワキ前同人 福王和幸

大鼓 佃 良勝

小鼓 曾和正博 笛 槻宅 聡

アイ太刀持

山本則秀

後見 内田安信

友枝雄人

地謡

狩野祐一 金子敬一郎
佐藤寛泰 長島 茂
塩津圭介 香川靖嗣
谷 友矩 狩野了一

休憩(二十分)

狂言

福の神

シテ福の神

山本東次郎

アド参詣人甲

山本泰太郎

アド参詣人乙

山本凜太郎

地謡

山本則重
山本則俊
山本則秀

仕舞

八島

友枝昭世

佐藤 陽

桜川

内田安信

地謡
狩野了一
佐藤章雄
金子敬一郎

休憩(十分)

能

シテ連安田友春の妻 大島輝久

子方花若 大島伊織

後シテ前同人

粟谷明生

前シテ小沢友房

望月

ワキ望月秋長 殿田謙吉

大鼓 原岡一之 太鼓 観世元伯
小鼓 鶴澤洋太郎 笛 一噌隆之

アイ望月の従者 山本則重

後見

塩津哲生
中村邦生

地謡

佐藤 陽 谷 大作
佐々木多門 出雲 康雅
友枝雄人 粟谷 能夫
友枝真也 長島 茂

附祝言

—終了予定 午後五時頃—

解説

草紙洗小町(そうしあらいこまち)

宮中での御歌合せの会に、大伴黒主の相手は、小野小町に定められる。黒主は、小町には到底かなわないと思ひ、一策を案じ、供をつれて、その前夜、小町の私宅に忍び入り、小町が明日吟ずる歌を口ずさむのを盗み聞き、それを万葉集の草紙に書き入れる。(中入)翌日、清涼殿の御歌合せには、帝をはじめ、紀貫之や男女の歌人が居並ぶ。帝の号令のもと紀貫之が「水辺の草」と題した小町の歌を詠み上げ、帝がその歌を絶賛すると、黒主は古歌だと帝へ訴える。驚いた小町は出典をたずねると、万葉集だが作者不明と答える。小町は、万葉集の歌ならば全て知っているのだから、そんな筈はないというが、黒主は前もって加筆しておいた万葉集の草紙を示す。帝の御前で辱められた小町は、無念ながらも草紙を手に見る。ふと「水辺の草」の歌だけが墨の色が少し違い、あとから書き足したように見える。小町はせめて黒主の出した草紙を洗わせてほしいと、貫之を通じて願ひ出る。帝の許しをうけて洗ってみると、その一首だけが消え失せ、入れ筆であることが露見し、小町の正しさが明らかになる。黒主は非を恥じて自害しようとするが、小町は同じ歌詠みとしての同情からこれを許し、帝にも許される。そして小町はすすめられて、御世を祝い、和歌の徳を讃えた舞を舞う。

福の神(ふくのかみ)

大晦日の夜に、参詣人の二人が福の神の神前で恒例の神社へ参詣した。鬼は外、福は内と豆を持って離し立てると、大きな笑い声をあげて福の神が現れる。福の神は二人の参詣をたいへん喜び、御神酒を所望し、早起き、慈悲、夫婦和合、隣人愛の徳を説き、謡い舞い、朗らかに笑って退場する。(約二十分)

望月(もちづき)

信濃の国(長野県)の住人で安田の荘司友春の家臣、小沢の刑部友房は、所用があつて都にいる間に、主人の友春が望月秋長と口論の末殺害されたことを聞く。直ちに帰国の途についたものの、自らの命も狙われていることを耳にし、帰国もできず、近江国(滋賀県)の守山の宿で甲屋という宿を設けて暮らしていた。そこに夫が討たれた後、寄るべもなく故郷を出た友春の一子花若と友春の妻が、守山の宿にたどりつき、甲屋に泊まることになった。友房は一目見て主君、友春の奥方と花若と気づき、自ら名乗って再会を喜ぶ。一方、望月秋長は友春を殺した罪で長年都に留め置かれていたが、晴れて自由の身となり、本国信濃へと向かつていた。運命の悪戯か、秋長は花若達と同日に甲屋に泊まり合わせる。そこで友房は今宵こそは仇を討たねばならぬと心に定め、なにくわぬ顔で望月を歓待する。そして花若の母を盲御前に仕立てて花若とともに座敷に出し、奥方に曲舞を誦わせたり、花若に八撥を打たせたりした末、自分も獅子舞を舞う。そして望月が居眠ったすきを狙って、友春と花若は積年の恨みを晴らし本望を成し遂げる。敵討ちの手段として芸尽くしを見せる能で、クセを地謡、羯鼓を子方、獅子をシテと三人三様の芸を演ずるのが趣向。特に獅子舞のあることで重い習い物とされている。(約百分)